

答 申 書

三雲地区地域審議会
(平成 23～24 年度)

平成25年1月15日

松阪市長 山中光茂様

三雲地区地域審議会
会長 伊藤末治

「地域でできること」について（答申）

平成23年9月20日付け11松戦第000358号をもって諮問のあった「地域でできること」について、次のとおり答申します。

記

三雲地区地域審議会では、諮問書で求められている松阪市の将来像である「市民みんなが幸せを実感できるまち」の実現に向けて、平成23・24年度にわたり「三雲らしさ」を発揮したまちづくりに向け「地域でできること」について審議を重ねてまいりました。

将来像実現に向けて「三雲地域として何ができるのか」を松阪市総合計画「市民みんなの道標^{みちしるべ}」をもとに、三雲地域の目指すべき未来の姿『「住みたい、訪れたい」「地域の誇り」が持てる一体感のあるまち』を目指して、委員18人が前回の議論をもとに、また現在の社会状況も踏まえながら4つのテーマを設け、グループ別に勉強会を持ち、議論を進めてきました。

グループ別の勉強会の内容は、地域審議会ですらに議論を重ね検討してきました。その内容を地域で活動する住民協議会の皆様をはじめ、地域住民の皆様から「地域でできることに」について広くご意見を頂戴しようと、地域審議会始まって以来、初めてのシンポジウム（意見交換会）を開催し、多くのかたがたがお集まりになる中、貴重なご意見を頂戴いたしました。

三雲地区地域審議会は、これまでいただいたご意見などを踏まえ地域における「地域でできること」について「三雲らしさ」を大切にしながら、誰もが幸せになる地域づくりを目指して、われわれの思いが地域の発展、さらには松阪市全体の発展につながっていくことを願っています。

「三雲地域の未来の姿」実現に向けて“地域でできること”

三雲地区地域審議会では、前回の地域審議会で議論され、松阪市総合計画に盛り込まれた“三雲地域の未来の姿”を踏まえ、1.「福祉 連携・交流」2.「子育て・教育」3.「産業振興」4.「防災」の4つのテーマを設定し、「地域でできること」すなわち私たち地域住民、自らがさまざまな立場から具体的に行動できることを多くの皆様のご意見などを参考に、テーマごとに議論を進めてきました。

ここに“三雲地域の未来の姿”実現に向けて、具体的な地域課題の解決方法を提示します。

1. 福祉 連携・交流

“『地域の誇りが持てる一体感のあるまち』の実現のため、地域住民の交流連携を図り「きっかけ」づくりを促します”

万一の災害時に備え、自治会などの協力のもと、弱者であるひとり暮らしのお年寄り世帯などの把握が必要と考えます。また、住民協議会をはじめとする地域団体のマンパワー、組織力をもって、すでに実施されている事業を活用し異世代間の交流を促すことにより、一体感のあるまちを目指します。

2. 子育て・教育

“『地域全体で子どもを守り、育て、生き生きと安心して学び遊べる環境』を目指すため、地域ぐるみで子育てを支援し、子育て情報の発信や若い世代の交流、さらには異世代間の交流を図るなど「三雲らしい子育て支援」が求められています。”

「ここに来ると“ほっと”する。安心して遊ばせることができる」

そんな言葉がきかれる子育て支援を目指すために、三雲地域の特色を生かし、子育て世代へ情報収集できる場の提供や機会づくりが必要です。また「三雲らしさ」を目指すために、三雲の豊かな自然などを生かし積極的に子どもたちを外へ連れ出す工夫を、住民協議会と公民館の協働により開催されているふれあい祭りなどの各種交流事業を活用します。

3. 産業振興

“「地域の農業は地域で守る」を主眼に、地元の産物を生かした『後継者の育成を地産地消により目指す』とともに、多くの潮干狩り客が訪れる五主海岸の憩いの場づくりを地域の関係団体が協力し検討していく必要があります”

農業を取り巻く地域の団体により、農地の集約と集落営農の在り方など、将来の農業経営について集落単位で話し合う機会を持ち、農家の担い手の育成と地域の農業が継続できるよう、価値観を共有する地域住民、学校、消費者を巻き込んだ活動を展開していくことにより、地産地消を促し耕作放棄地の発生抑止へとつなげます。

五主海岸を訪れた人々の憩いの場づくりに向けて、地域の産物「青のり」を活用するなど、漁業協同組合をはじめ地域の団体が協力する組織づくりを目指します。

4. 防災

“住民協議会、自治会、学校の各場面において「地域住民の防災意識の高揚」に取り組み『住みたい』まちを目指します”

米ノ庄住民協議会を中心に誕生した防災コーディネーターから、専門的な知識や過去の事例から学ぶ機会を持つなど、防災に関する知識や知恵を学ぶ機会をつくる必要があります。また学校での防災教育により子どもたちを通じて日ごろから家庭で「避難場所の確認」を行うことや、実際に被災した場合、必要となる避難所での避難者の初動について示したマニュアルづくりを、自治会などの協力を得て行うなど、いつかは起こるその日に向けて継続的な備えを重ね、防災意識の高揚を図ります。

【1. 福祉 連携・交流】

「地域でできること」について

1. 現状と課題

近年都市化が進む中、近所付き合いが希薄になり、地域で隣近所にどんな人が住んでいるかわからないという状況が起こっています。地域での活動を展開していくのに新しく居住されたかたや集合住宅のかたがたの取り込みをどのようにしていくかが課題となっています。

社会福祉協議会では、ひとり・ふたり暮らしなどのお年寄りのかたがたに万一の場合の連絡先などを印刷した手帳を配布し、地域による支援がしやすく、より安全性が高まるよう取り組んでいます。また、お年寄りを対象にした集いの開催を検討している住民協議会もあります。

地域には地域の安全安心を日ごろから守る武四郎見守り隊や民生委員児童委員、自治会、保護者会、体育振興会など、地域でさまざまな活動を展開している組織があります。

また、安心して仕事をしながら子育てをするための学童保育についても地域（鵠地区）で声が上がっています。

2. 地域の未来の姿の実現に向けて「地域でできること」

“『地域の誇りが持てる一体感のあるまち』の実現のため、地域住民の交流連携を図り「きっかけ」づくりを促します”

万一の災害発生時に備え、民生委員児童委員や自治会などの協力を得ながら弱者のひとり暮らし老人、お年寄り世帯などの把握に努める必要があります。実際に取り組んでいる自治会の活動も参考にしながら活動の輪を広げます。

また、地域では夏祭りやたこ揚げ大会などのさまざまな交流事業が開催され地域住民の多くの参加があります。地区の催し物に地域住民が気軽に参加できる交流の場となるよう住民協議会、公民館、体育振興会などが一体となり、組織団体のマンパワー、組織力を活用して企画、提案、実行することにより、異世代間の交流を促す「きっかけ」づくりを目指し、若い世代の育成につなげます。特に小学生が集う場所には保護者も集い、交流が活発です。そのような場を活用し各組織団体が中心となり学校、保護者会との交流を図ります。

【2. 子育て・教育】

「地域でできること」について

1. 現状と課題

三雲地域では、宅地化の進展により急速な人口増加が進み、核家族が増加傾向にあります。それに伴い、子育てや家庭生活に不安をかかえる世代が増えています。

そのような状況の中、子育て支援センターが開設されてはいるものの、子育て中の親の孤立感や負担感を和らげるためには、もっと身近に悩みを相談できる場が必要であり、子育てに関する情報を入手しやすい環境が必要となっています。

学童保育については、すでに小野江・天白地区に設置されています。しかし地域の声は上がっているものの、鶴・米ノ庄地区にはまだ設置されていません。

また、三雲地域は川や海に囲まれ、田畑の多い自然に恵まれた地域ではありますが、子どもたちを安心して遊ばせることのできる広場や公園が少ないのが現状となっています。

2. 地域の未来の姿の実現に向けて「地域でできること」

“『地域全体で子どもを守り、育て、生き生きと安心して学び遊べる環境』を目指すため、地域ぐるみで子育てを支援し、子育て情報の発信や若い世代の交流、さらには異世代間の交流を図るなど「三雲らしい子育て支援」が求められています。”

「子育て支援・親同士のふれあい」について

「ここに来ると“ほっと”する。安心して遊ばせることができる」

そんな感想が、三雲南幼稚園に併設されている子育て支援センターに寄せられます。そんな場所を、子育て支援センターと公民館などが連携して地域へ出向くことにより、身近に提供していきます。子育て世代が、子育てについて情報収集のできる場として、親同士がふれあいながら情報交換のできる場とします。核となる子育て支援センターの指導のもと、さまざまな「気づき」の場を提供していきます。また、広報活動など行政の支援も受けながら、情報を広く周知していきます。

また、子育て支援センター・幼稚園・民生委員児童委員・子育て支援ボランティアなど子どもを取り巻く団体が、情報交換できる場としての連絡協議会を立ち上げるため検討しています。

現在、三雲中学校PTAのよびかけにより、有志による幼保・小・中学校の連絡協議会(仮称)の立ち上げにむけて、準備が進められています。幼保・小・中の現状について報告会、課題の検討、さらに子育てボランティアの募集を視野に入れることで、子育て世代が、支援の受け手だけでなく、積極的に協働し支え合える場の提供を模索しています。

各地区公民館の家庭教育講座や、親または祖父母世代と子どもとが参加できる事業

を、今後もさらに活発に展開していきます。また、住民協議会と公民館との協働により異世代間の交流事業を積極的に実施し、子育て世代のふれあいの場づくりを進めています。

具体的には、夏祭り、ふれあい祭り、地区民運動会、地区文化祭、花火大会、七夕祭り、ふれあい旅行、たこ揚げ大会、和だこづくり、親子体験講座、ゲートボール大会、パターゴルフ大会、ペタンク大会などの事業を活用します。

公民館は、他の目的を有する併用施設として制約を受ける館もありますが、図書室や図書コーナーなどを設けることで、子どもたちや親子連れが訪れやすい雰囲気づくりをしています。

また、三雲公民館図書室では、乳幼児親子向けに子育て支援センターにて、ボランティア(16人)による読み語りを月1回実施しています。この他にも、ボランティアによる「お話会」を南北幼稚園、三雲地域全ての小中学校で、年356回実施しています。また、1歳半健診におけるブックスタート事業およびサマースクールに参加協力もしています。さらに、クリスマスカード作り・絵本作り・エコバッグ作りなどの講座を実施するなどの子育て支援を実施し、さらにこれらを継続発展していきます。

「公園・広場・遊び場」について

地域の公園・広場・遊び場については、民生委員児童委員による地区内の遊び場および通学路の点検が実施されました。今後、公園や広場など遊び場として活用できる場所をマップにし、子育て支援センターや公民館などに配布設置し、子育て情報として周知していきます。

また、ハートフルみくもスポーツ文化センターなどの体育館や、駐車場など広い場所を子どもたちに開放するための検討を進めています。

「三雲らしい子育て」について

三雲らしい子育てとは、三雲の豊かな自然を積極的に利用することにあると考えます。

住民協議会主催行事や学童保育、公民館講座などの各場面で、積極的に子どもたちを外に連れ出す工夫をしています。今後さらに継続発展させます。

具体的には、海岸の自然観察会、親水公園の観察会、魚つかみ、ウォーキング、花づくり運動、希少種木の育成とライトアップ事業、グリーンカーテン運動などの行事を活用します。

【3. 産業振興】

「地域でできること」について

1. 現状と課題

地元の農水産物を活用した独自商品を販売していく場所や仕組みがない現在、個人では限界があり、地域の営農組合組織が地域とかかわる必要があります。

営農組合や個人の担い手、会社を定年した人たちが意欲を持って取り組めるようになるためにも組織や直売所づくりが課題で、その効果は耕作放棄地を減らしていくことが期待できます。

地元の産物を安定的に学校給食などに供給するために、給食センター、営農組合、JAなどが参加する協議会を立ち上げ協議していく必要があります。

また、年間3万人が訪れるという五主海岸の潮干狩りへの来客を受け入れる施設が必要といわれています。

2. 地域の未来の姿の実現に向けて「地域でできること」

“「地域の農業は地域で守る」を主眼に、地元の産物を生かした『後継者の育成を地産地消により目指す』とともに、多くの潮干狩り客が訪れる五主海岸の憩いの場づくりを地域の関係団体が協力し検討していく必要があります”

【農業】

農地の集約と集落営農の在り方など、将来の農業の在り方を集落単位で話し合い、人・農地プランを策定し、各地域で農地の保全に取り組み、担い手の育成と農村の価値観を共有する地域住民、学校、消費者とを巻き込んだ活動を推進します。

同プランを活用しながら地域の農業は地域で守っていくために、行政とJAの協力を得ながら自治会と共同し、既存の営農組織の拡充と、担い手となる農家群を支援し、後継者の育成など地域の農業が継続できるよう活動を展開します。

また、同プランを早期に実践へと結び付け、農業基盤を強化し地域の農業を守ることで、給食センターなど地域内の消費者への食材提供や販売所を通じた日々の働きを進め、今後の地域内循環型の地産地消につなげていくことで、耕作放棄地の発生抑止につなげていきます。

・農地の集約

住民協議会、各地区農政担当者などによる自治会集落単位での集約を実施します。

- ・集落営農の確立と担い手の育成
住民協議会、J A、行政の連携による自治会集落単位での話し合いを実施します。
- ・人、農地プランの普及
住民協議会、自治会、J A、行政の連携によりプランを作成し、農村の価値観を共有する地域住民、学校、消費者とともに、地域の農地の保全に取り組みます。
- ・アンケート調査
住民協議会、自治会、J A、行政の連携により将来の農業経営についてアンケート調査を実施します。

【漁業】

集約化した施設の整備が必要で、地域の特色ある「青のり」生産とその漁場を守る必要があります。そして五主海岸の観光化、施設整備については、五主海岸を訪れた人々の憩いの場づくりに向けて、漁業協同組合、地元自治会、住民協議会が協力する組織づくりを目指します。

【六次産業化】

三雲地域の住民協議会に働きかけ、地元産物を生かした特色ある食べ物（B級グルメ）コンテストなどを開催し、将来的に地方卸売市場の一般開放などにあわせて出店販売し、地域活性化を目指します。

<参考>

※人・農地プラン（農林水産省）：高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などの「人と農地の問題」があり、5年後、10年後の展望を描き「人と農地の問題」を解決することにより就農者の増加や農地の集積を応援する施策のこと。

※六次産業（ろくじさんぎょう）：農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態のこと。

【4. 防災】

「地域でできること」について

1. 現状と課題

三雲地域には、海に面しているという特性があります。目指すべき未来の姿である『「住みたい、訪れたい」「地域の誇り」が持てる一体感のあるまち』を目指していくためには、だれもが安心して暮らせるまちでなければなりません。

3. 1 1 東日本大震災が発生し、大津波による壊滅的な被害が発生し、三雲地域においても、南海トラフ巨大地震の発生による被災が懸念されています。ひとたび、大地震が発生し、大津波に襲われた場合、何もかもが根こそぎ奪われてしまいます。

海に面している地域として、地域住民の防災対策への関心は非常に高く、万一、大地震による大津波に襲われたとき三雲地域の大半が浸水対象地域となることが想定されています。そのような状況の中、防災・減災について、地域、自分たちで何ができるのかを検討する必要があります。

2. 地域の未来の姿の実現に向けて「地域でできること」

“住民協議会、自治会、学校の各場面において「地域住民の防災意識の高揚」に取り組み『住みたい』まちを目指します”

日ごろから「防災意識の高揚を図る」ことが大切で、災害に対する知識を得るためにも、三雲地域の米ノ庄住民協議会を中心に誕生した防災コーディネーター（5人）から、専門的な知識や過去の事例を学ぶ機会を持ちます。「津波てんでんこ」という言葉やその意味を知るためにも、日ごろ開催されている自治会、住民協議会での避難訓練や防災講話などを活用して、コーディネーターから防災に関する知識や知恵（家具固定など）を学ぶ機会を作ります。

また学校教育の面で、釜石市の例にもあるように、学校での子どもたちへの防災教育も重要で、子どもたちを通じて家庭での「避難場所の確認」など日ごろからの教育が万一の時、非常に有効になります。

実際に被災した場合の避難所での避難者の初動について、行政の支援も受けながら自治会および住民協議会に働きかけ、誰が見ても分かるような簡単なマニュアルづくりを進め、日ごろから公会所などへ掲示し、地域住民の目に触れるようにすれば、避難時における地域活動をもとにした避難所運営の面で非常に役立つと考えます。

以上のような地域での活動を行政とともに継続的に進め、さらなる防災意識の高揚を図り、地震だけでなく風水害などの災害が起こりうる可能性がある中、この地域で自然と共存するわれわれのマナーとして、いつかは起こるその日に向けて備えを重ねることが「地域でできること」と考えます。

<参考>

※「防災コーディネーター」：平常時は地域や企業などで防災啓発活動を行い、災害時には公的な組織と協働して、復旧・復興活動を支援できる人材のこと。

※「津波てんでんこ」：岩手県の三陸海岸地域で言い伝えられている言葉。てんでんこは、てんでばらばらという意味をもち、津波の際には各自てんでばらばらに一人で高台へ逃げろということ。

平成 23・24 年度 三雲地区地域審議会

会 長 伊 藤 末 治
副会長 瀧 川 彌壽夫
委 員 伊 坂 光 男
委 員 伊 藤 恵美子
委 員 鵜 飼 照 子
委 員 辛 島 國 博
委 員 齋 藤 佳代子
委 員 田 中 和 子
委 員 丹 保 輝 雄

(平成 24 年 10 月 3 日～)

委 員 野 田 正 晴
委 員 野 田 洋 子
委 員 服 部 秀 祐
委 員 花 井 忠 和
委 員 浜 田 洋 子
委 員 平 岡 冬 企
委 員 増 田 正 行
委 員 萬 濃 淳

(平成 23 年 9 月 20 日～平成 24 年 7 月 16 日)

委 員 森 口 タマキ
委 員 安 井 史 郎

(委員は五十音順、敬称略)

三雲地区地域審議会の経過

【平成 23 年度】

<全体会議>

第 1 回 三雲地区地域審議会

開催日時 平成 23 年 9 月 20 日 (火) 午後 7 時～

開催場所 三雲地域振興局 2 階 大会議室

参加者 委員 17 人 事務局 9 人 振興局 7 人

協議事項

1. 委嘱状の交付
2. 委員自己紹介
3. 正副会長の選出
4. 市長より諮問
5. 地域審議会の概要について
6. 「市民みんなの道標」^{みちしるべ}～未来につなげるまちづくり計画～について
7. 諮問に対する協議の進め方について

第 2 回 三雲地区地域審議会

開催日時 平成 23 年 11 月 14 日 (月) 午後 7 時～

開催場所 三雲地域振興局 2 階 大会議室

参加者 委員 18 人 事務局 6 人 振興局 4 人

協議事項

1. 今後の地域審議会スケジュールの確認について
2. 委員意見について

第 3 回 三雲地区地域審議会

開催日時 平成 24 年 2 月 8 日 (水) 午後 7 時～

開催場所 三雲地域振興局 2 階 大会議室

参加者 委員 17 人 事務局 6 人 振興局 7 人

協議事項

1. 各グループの討議状況と質疑応答等
2. 今後の取り組みについて

<正副会長会議>

第 1 回 各地区地域審議会正副会長会議

開催日時 平成 24 年 3 月 29 日 (木) 午後 4 時～

開催場所 松阪市役所議会棟 2 階 第 3・4 委員会室

参加者 会長・副会長 事務局 2 人

協議事項

1. 平成 23 年度審議の状況について

2. 意見交換会及び平成24年度審議の進め方について

<班長会議>

第1回 班長会議

開催日時 平成24年3月15日(木) 午後2時30分～

開催場所 三雲地域振興局1階 第2会議室

参加者 委員6人 事務局3人

協議事項

1. 各グループの討議状況の報告

<班別会議>

協議事項

「地域の未来の姿」の実現に向けてテーマごとに「地域でできること」を協議検討

第1班「福祉、連携・交流」

・第1回 班別会議

開催日時 平成23年12月8日(木) 午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局2人

・第2回 班別会議

開催日時 平成24年1月19日(木) 午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員2人 事務局2人

第2班「子育て、教育」

・第1回 班別会議

開催日時 平成24年1月16日(月) 午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員3人 事務局2人

・第2回 班別会議

開催日時 平成24年2月13日(月) 午前9時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員3人 事務局2人

第3班「産業振興」

・第1回 班別会議

開催日時 平成23年12月2日(金) 午後2時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員5人 事務局2人

・第2回 班別会議

開催日時 平成23年12月13日(火)午後2時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員5人 事務局2人

・第3回 班別会議

開催日時 平成24年1月20日(金)午後2時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員5人 事務局2人

第4班「防災」

・第1回 班別会議

開催日時 平成23年12月5日(月)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局2人

・第2回 班別会議

開催日時 平成24年1月11日(水)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局2人

・第3回 班別会議

開催日時 平成24年2月21日(火)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局2人

【平成24年度】

<全体会議>

第4回 三雲地区地域審議会

開催日時 平成24年5月9日(水)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局2階 大会議室

参加者 委員16人 事務局5人

協議事項

1. シンポジウム(意見交換会)について

第5回 三雲地区地域審議会

開催日時 平成24年10月26日(金)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局2階 大会議室

参加者 委員15人 事務局4人 振興局2人

協議事項

1. シンポジウム(意見交換会)の意見について
2. 「地域でできること」について

第6回 三雲地区地域審議会

開催日時 平成24年11月28日(水)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局2階 大会議室

参加者 委員14人 事務局5人 振興局3人

協議事項

1. 各地区地域審議会 会長・副会長会議の報告について
2. 答申の取りまとめについて

<シンポジウム(意見交換会)>

“三雲らしさを追い求めて”

シンポジウム「幸せを実感できるまちの実現に向けて」 ～地域でできること～

開催日時 平成24年6月24日(日)午前9時～

開催場所 ハートフルみくもスポーツ文化センター 会議室

参加者 参加住民110人 委員14人 事務局10人

内 容

第1部 意見交換会

- ・各班よりテーマごとの審議経過報告
- ・意見交換

第2部 パネルディスカッション テーマ「これからの住民協議会のあり方」

コーディネーター 松阪市長

パネリスト 米ノ庄住民協議会会長

天白まちづくり協議会会長・副会長

鶴まちづくり協議会会長・副会長

小野江まちづくり協議会会長・事務局長

<正副会長会議>

第2回 各地区地域審議会正副会長会議

開催日時 平成24年11月22日(木)午後3時30分～

開催場所 松阪市役所議会棟2階 第3・4委員会室

参加者 会長・副会長 事務局2人

協議事項

1. 意見聴取会を終えて
2. 答申日及び答申書(案)スタイルについて

<全体会議・勉強会>

第1回 勉強会

開催日時 平成24年4月11日(水)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局2階 大会議室

参加者 委員13人 事務局5人 振興局2人

協議事項

1. 各地区地域審議会 会長・副会長会議の報告について
2. シンポジウム(意見交換会)の予定と内容について

第2回 勉強会

開催日時 平成24年6月15日(金)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局2階 大会議室

参加者 委員12人 事務局5人

協議事項

1. 飯高地域シンポジウムの報告について
2. シンポジウム(意見交換会)について

第3回 勉強会

開催日時 平成25年1月7日(月)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局2階 大会議室

参加者 委員16人 事務局5人 振興局3人

協議事項

1. 答申書(案)の確認について

<班長会議>

シンポジウム(意見交換会)三雲管内住民協議会代表者との打ち合わせ会

開催日時 平成24年5月29日(火)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局2階 第4・5会議室

参加者 住民協議会代表9人 委員7人 事務局5人

協議事項

1. シンポジウム(意見交換会)の日程と内容について

第2回 班長会議

開催日時 平成24年11月5日(月)午後6時30分～

開催場所 三雲地域振興局1階 第2会議室

参加者 委員6人 事務局3人

協議事項

1. 答申書原案づくりに向けたテーマの検討、設定について

第3回 班長会議

開催日時 平成24年11月15日(木)午後6時30分～

開催場所 三雲地域振興局1階 第2会議室

参加者 委員6人 事務局3人

協議事項

1. 答申書原案づくりに向けた各グループ会議の内容報告について

第4回 班長会議

開催日時 平成24年12月17日(月)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 第2会議室

参加者 委員6人 事務局3人

協議事項

1. 答申書(案)の取りまとめについて

<班別会議>

協議事項

「地域の未来の姿」の実現に向けてテーマごとに「地域でできること」を協議検討

第1班「福祉、連携・交流」

・第3回 班別会議

開催日時 平成24年11月7日（水）午後6時30分～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局1人

第2班「子育て、教育」

・第3回 班別会議

開催日時 平成24年11月13日（火）午後12時50分～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員3人 事務局2人

・三雲北南幼稚園・子育て支援センターとの話し合い会

開催日時 平成24年11月30日（金）午後13時30分～

開催場所 三雲南幼稚園

参加者 三雲北幼稚園長兼北幼稚園長、北保育園長、南幼稚園長兼南幼稚園長、南保育園長、子育て支援センター長、委員2人 事務局2人

第3班「産業振興」

・第4回 班別会議

開催日時 平成24年11月12日（月）午後6時30分～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局2人

・第5回 班別会議

開催日時 平成24年12月3日（月）午後6時～

開催場所 三雲管内

参加者 委員5人

第4班「防災」

・第4回 班別会議

開催日時 平成24年11月14日（水）午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局2人

・第5回 班別会議

開催日時 平成24年12月6日(木)午後7時～

開催場所 三雲地域振興局1階 会議室

参加者 委員4人 事務局2人

参考資料：シンポジウム会場アンケート結果

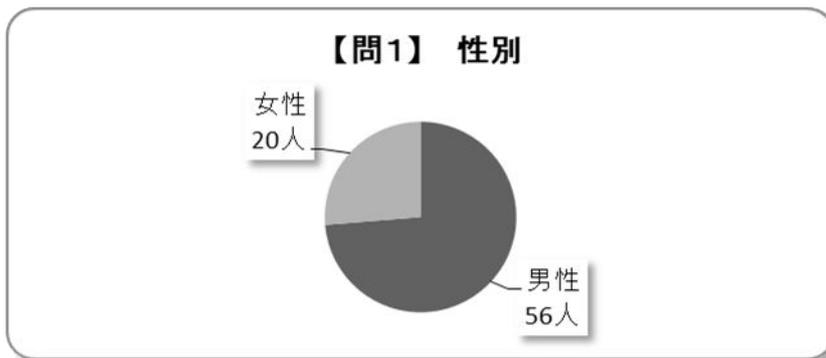
三雲地区地域審議会が初めて開催した“三雲らしさを追い求めて”シンポジウム「幸せを実感できるまちの実現に向けて」～地域できること～（意見交換会）には、三雲地域の住民協議会代表の皆様をはじめ、開催日当日110人のかたがたにお越しをいただきました。

当日は、限られた時間であったため、一人でも多くのかたがたにご意見をいただこうと「シンポジウム（意見交換会）アンケート」を会場の皆様にお願ひしました。

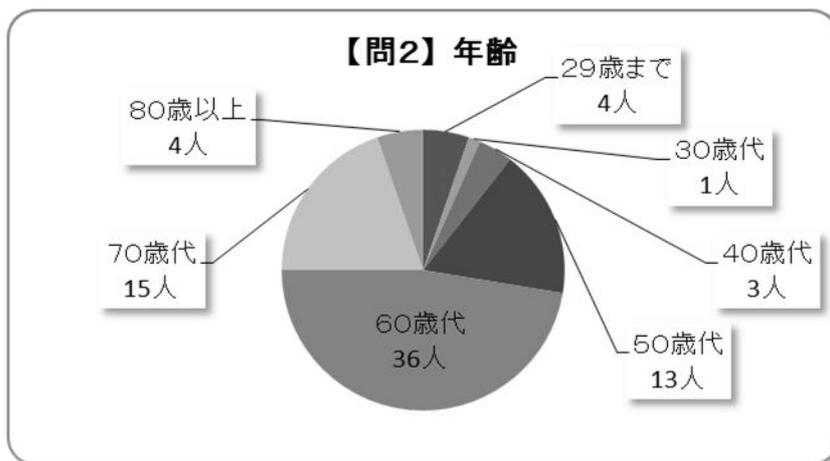
そのアンケート結果をご紹介します。

■アンケート回収内容 77枚（内1枚、白紙）

【問1】性別 ・男性 56人・女性 20人

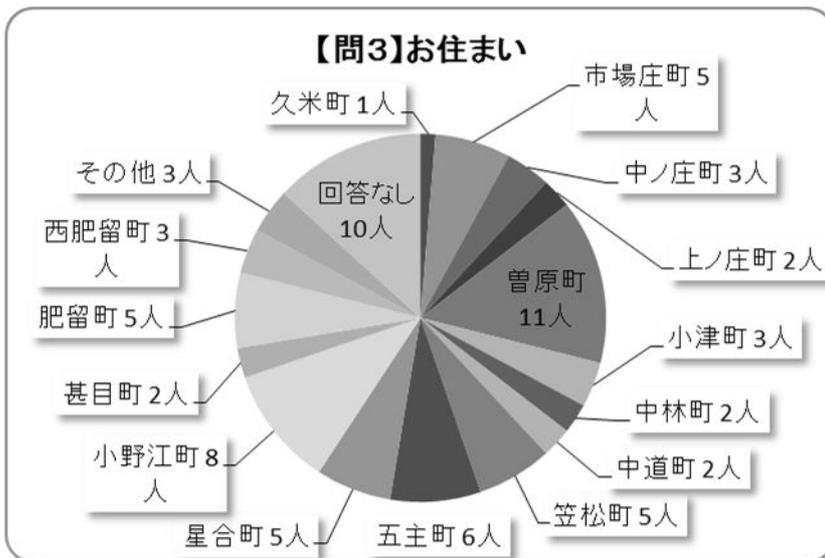


【問2】年齢 ・29歳まで 4人・30歳代 1人・40歳代 3人
・50歳代 13人・60歳代 36人・70歳代 15人
・80歳以上 4人



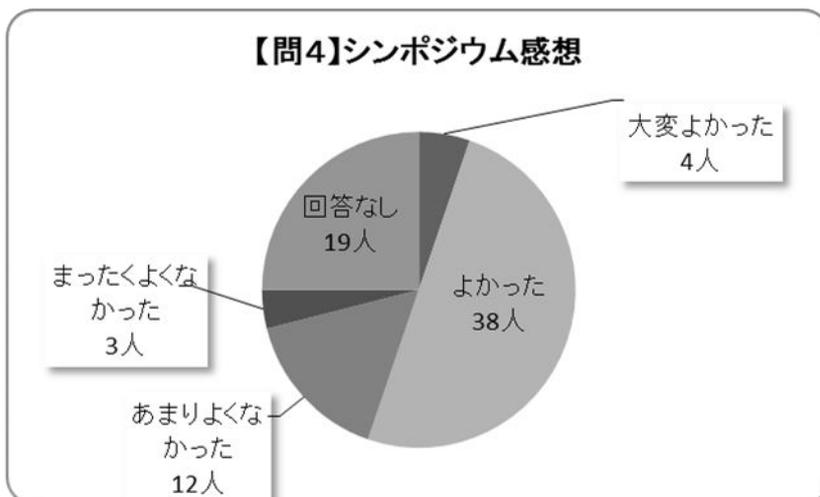
【問3】お住まい

《米ノ庄地区》・久米町 1人・市場庄町 5人・中ノ庄町 3人・上ノ庄町 2人
 《天白地区》・曾原町 11人・小津町 3人・中林町 2人・中道町 2人
 《鶴地区》・笠松町 5人・五主町 6人・星合町 5人
 《小野江地区》・小野江町 8人・甚目町 2人・肥留町 5人・西肥留町 3人
 《その地域》 3人
 《空白》 10人



【問4】シンポジウム感想

①大変よかった 4人 ②よかった 38人
 ③あまりよくなかった 12人 ④まったくよくなかった 3人
 回答なし 19人



【問5】「地域でできること」についての意見（抜粋）

・地域の活動に対して、新しく居住されたかたや、また集合住宅にお住まいのかたなどの取り込みをどうしていくかが、どこの地域でも問題となっている。

- ・若い世代を育成していくことが大切である。
- ・現状住民は「不幸せ」なのではないでしょうか。何を改善したら「幸せ」と感じるようになるか、全体（全員）の参加がえられる項目、住民が不安に感じていること「防災」について時間をかければと考えます。「自助」「共助」に対する指針を各レベル（個人、自治会、まちづくり、市政）で打ち出すことが必要と思われる。
- ・もっともローカルな団体、自治会で小さなことから意見を集めて住民協議会でできることを決めてはどうか。
- ・文化活動をもっともっと活発にしてほしい。特に図書館の新設を希望します。多くの住民に読書の楽しさ、子どもたちに対する読書する習慣、図書館としての独自の催物をもっと積極的にやってほしい。
- ・住民協議会が立ち上がり4年ほど経過していますが、今はこれをうまく軌道にのせることを重要点としていくこと。
- ・問題、課題が何となくばくぜんとしていて、はっきりしてないのではないかと思う。何をどうしたらよいのかをもっと掘り下げて解決策を詰めていかないと実現性がない。
市、行政に対する要望による解決策ではなく、自分たちでできることからスタートすべき、と考える
- ・個人情報の件もあり、難しいかも知れませんが、地域住民の現状把握を進めることが重要ではないでしょうか。例えば、高齢のかたが平日の昼間に地震などがあつた場合に、平日に休日が振られている現役世代がいることがわかっておれば、避難などがしやすくなるのではないか。
- ・市民の悩みや困ったこと、住民協議会で相談できる場所、人を配置できたら良いと思う。地域で応援して自治会や個人のことにも目をかけてほしい。
- ・多目的広場（子どもたちの自由広場）を歩いていける所に1反以上の面積で住民協議会が所有して整備していただきたい。30地区分。
- ・地区ごとにつながりを深めて行くことも重要と思うが、今後は隣接地区との連携を図るような取り組みも必要になると思う。



鶺鴒（かささぎ）七夕祭り



米ノ庄（よねのしょう）クリーン作戦

三雲らしさを
追い求めて

シンポジウム

「幸せを実感できるまちの実現に向けて」

地域でできること



小野江（おのえ）防災訓練



天白（てんぱく）夏祭り

プログラム

9:00 開会
 9:00～9:30 あいさつ
 9:30～11:10
 1部 意見交換会（三雲地区地域審議会）
 テーマ「地域でできること」

11:20～12:30
 2部 パネルディスカッション
 テーマ
 「これからの住民協議会のあり方」
 ・コーディネーター 松阪市長 山中光茂
 ・パネリスト
 米ノ庄住民協議会代表
 天白まちづくり協議会代表
 鶺鴒まちづくり協議会代表
 小野江まちづくり協議会代表
 12:30 閉会

開催日時・場所

平成24年6月24日(日)
 9:00～12:30
 (開場8:30～)

会場：ハートフルみくも
 スポーツ文化センター
 (会議室)

お問い合わせ：松阪市三雲地域振興局
 地域振興課 Tel.56-7905

●主催：三雲地区地域審議会・松阪市

“三雲らしさを追い求めて”

シンポジウム「幸せを実感できるまちの実現に向けて」 ～地域でできること～

○開会・あいさつ ・・・ 9:00

- ・主催者
- ・山中市長「地域でできること ～地域課題を解決するために何ができるか～」

○第1部 意見交換会（三雲地区地域審議会）
テーマ「地域でできること」 ・・・ 9:30

- ・第1班 テーマ「福祉、連携・交流」
- ・第2班 テーマ「子育て、教育」
- ・第3班 テーマ「産業振興」
- ・第4班 テーマ「防災」

平成23年9月に市長より諮問があった「地域でできること」について、班に分かれテーマごとに協議している三雲地区地域審議会（伊藤末治会長ほか委員17人）による審議経過報告の後、三雲管内4地区住民協議会代表の皆様を中心に山中市長、小林副市長も交えて意見交換を行い、平成25年1月予定の市長への答申に反映します。

休 憩

10分間

○第2部 パネルディスカッション
テーマ「これからの住民協議会のあり方」
・・・ 11:20

- ・テーマ1 住民協議会活動交付金のあり方について
- ・テーマ2 住民協議会の広域連携体制の構築について
- ・テーマ3 議会の役割と住民協議会の役割について

市内43地区に住民協議会が誕生しました。それぞれの住民協議会が持つ地域特性を活かしたまちづくりや地域課題に取り組み、行政と協働でまちづくりをすすめていくための基盤ができあがりました。今後、地域内の連携や住民協議会同士の連携をはじめ、地域づくりをすすめていくうえでの課題について市長のコーディネートのもと、三雲管内4地区の住民協議会代表の皆様をパネリストに迎え、会場と一体となり住民同士の意見交換の場として意見交換会を行います。

○閉会 ・・・ 12:30

※会場では、三雲管内4つの住民協議会の取り組みコーナーも開設します！